



JCOMM *news*

日本モビリティ・マネジメント会議ニューズレター

パンデミック「期」、 およびパンデミック「後」において成すべきMM



一般社団法人
日本モビリティ・マネジメント会議
代表理事 藤井 聡
(京都大学大学院工学研究科 教授)

MM(モビリティ・マネジメント)とは、一般には「当該の地域や都市を、過度に自動車に頼る状態から、公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に(「かきこく」)利用する状態へと少しずつ変えていく「連の取り組み」を意味するものと理解されていますが、その認識はあくまでも「平時」においてのみ通用するものです。なぜならそもそもMMとは様々な交通問題を、単なる技術やシステムの問題として取り扱うのではなく、「人間」が引き起こした社会的な問題なのだと思え、その上で対処していこうと考えるものだからです(『モビリティ・マネジメント入門』Fより)。

したがって、今のようなパンデミック状況下では当然、マネジメントの目的が全く異なってきます。このパンデミック状況の中では、「感染拡大による公的被害」および「パンデミック対策のための活動自粛に伴う公的被害」の「総和」の最小化こそ、モビリティをマネジメントする目標となります。

そのためには今なすべきは、その地域の感染状況に応じ

た適切な自粛水準の実現です。個人においては不要不急の外出行動の抑制であり、交通事業者においては行政が指定した感染「速度」抑制のために必要な水準へのモビリティの縮減・凍結です。そして、行政において求められるのは、自らが下した自粛要請に伴う社会的経済的損失に対する徹底的な「損失補填」です。

一方で、如何なる感染症対策状況においても、全ての社会経済活動を凍結することは御法度であり、最低限の生活ならびに医療活動維持のための交通・物流・運輸水準は絶対的に必要不可欠であり、行政も事業者もそうした最低限のモビリティ水準の確保が絶対的に求められます。つまりパンデミック状況下でも「過剰」でも「過小」でもない、公益の視点からの望ましい「モビリティ水準」なるものがあり、その実現に向けて、個人、事業者、政府が一体的に協力する体制が必要なのです。

そして、そうした取り組みの果てに、遅かれ早かれ我々は必ずやパンデミックを乗り越える日が訪れます。そうなった時、社会全体が、パンデミック被害を回復するための「復旧・復興」が絶対的に求められる事になります。その時、パンデミック前のモビリティ水準を復活させることはもちろんのこと、さらなる発展を目指さねばなりません。

その時には、我々が「平時」において培ったMM技術の全てが求められることとなります。その日が来るまで、我々は今しばらくトンネルをくぐらねばなりません。私たちが社会が続く限り、「終わらないトンネル」などありません。だからその日に向けて、我々は少なくとも今は、パンデミックという「有事」をくぐり抜けるMMの努力に全力を投入することが求められているのです。

第15回日本モビリティ・マネジメント会議開催のお知らせ

第15回日本モビリティ・マネジメント会議は、2020年7月17日・18日に島根県松江市「島根県民会館」にて開催予定です。中国地方でJCOMM開催は、第5回広島県福山市での開催から、10年ぶりとなります。また、松江市では、商業者と連携した「とつてもお得バス利用事業」や「松江市一斉ノーマイカーウィーク」、「バスまつりの継続実施」など、モビリティ・マネジメントについても多面的に実施をしている地域で、各地域でMMを展開する上でのヒントが沢山あるかと思えます。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、世界的に大きな被害が予想されますが、無事、JCOMMを開催できるように準備を進めております。今後の動向等については、JCOMMホームページやメーリングリストにて最新の情報をご確認くださいませよう宜しくお願いいたします。



次回開催地の観光名所を
ちょっとだけご紹介!

堀川遊覧船:松江市

松江城を取り囲む堀川を約50分かけてゆっくりと遊覧します。遊覧船というモビリティもご体験ください。



第15回日本モビリティ・マネジメント会議の発表及び参加申し込みのご案内

■主催: 一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議

■共催: バイタルリード・(公社)土木学会

■後援(予定): 国土交通省・松江市、ほか

■会場: 島根県松江市島根県民会館
(島根県松江市殿町158)

■日時: 2020年7月17日(金)・18日(土)

※プログラム概要は、詳細が決まり次第第HPで公開いたします

■発表申し込み【締切: 2020年4月20日(月)】

申し込み費用: 無料

JCOMM公式サイトより申し込みください

■参加申し込み【締切: 2020年6月29日(月)】

参加費(資料代含む): 3,000円 ※個人会員無料

JCOMM公式サイトより申し込みください

※JCOMM開催時期の松江市は観光客が非常に多く、宿泊場所の確保が困難になることが予想されます。お早めにご予約をお願いいたします。



2020年度JCOMM賞候補募集について

2020年度も他地域の模範となるような、効果的なMMプロジェクトを表彰するJCOMM賞の公募を行います。昨年度同様、マネジメント賞、デザイン賞、技術賞、プロジェクト賞と合わせて4つの部門で公募・審査を行います。自薦・他薦を問いませんので、奮ってご応募ください。

【JCOMM賞の主旨】

国内の様々なモビリティ・マネジメントについての様々な取り組みや研究の中でも、特に優秀な取り組みや研究をJCOMM実行委員会として選定し、その実現に貢献した個人あるいは団体を表彰します。これを通じて、モビリティ・マネジメントの「実務発展」と「技術発展」を期待します。

【各賞の概要】

● マネジメント賞

モビリティ・マネジメントにおける実務的な「一連の持続的マネジメント」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞、環境問題、公衆の健康増進問題や都市構造問題などの交通に関連する諸問題の解消に向けて、効果的に推進されている一連の持続的マネジメントについて、個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

● デザイン賞

モビリティ・マネジメントにおける実務的なプロジェクトにおいて実際に使用されたマップ、リーフレットフォルダー、アンケート票等の各種ツールの中でも、とりわけ秀逸なデザインがなされた一個、ないしは、一群のツールについて個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

● 技術賞

モビリティ・マネジメント実務に資する技術の発展に、顕著な貢献をなした「研究業績」もしくは「技術開発」について個人(複数可)を対象として授与する。

● プロジェクト賞

モビリティ・マネジメントの一連の取り組みの中で実施された「実務的な一プロジェクト」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞、環境問題、公衆の健康増進問題や都市交通問題などの交通に関連する諸問題の緩和に実際に大きな貢献をなしたプロジェクト、あるいは、そうした諸問題の抜本的緩和に繋がりを有する新規性を持つプロジェクトについて個人(複数可)あるいは団体(複数可)を対象として授与する。

応募方法

他薦あるいは自薦とし、別に定める推薦書1部に当該業績の関連資料1部(論文報告書[複数種可]、ツール一式等)を添付して、郵送あるいはE-mailにて下記JCOMM賞事務局宛に提出して下さい(ツール等については、現物の郵送を願います)。推薦書はJCOMMホームページよりダウンロードして下さい。

■選考と表彰: JCOMM実行委員会において選考し、第15回JCOMMにおいて表彰します。

■応募期限: 2020年4月20日(月)【必着】

■提出先(応募に関する問合せ先)

〒604-8223 京都市中京区新町通四上ル小結棚町428 新町アイエスビル4F (一社)システム科学研究所内

JCOMM賞事務局(担当: 東・山口) 電話: 075-221-3022 FAX: 075-231-4404 e-mail: jcomm@issr-kyoto.or.jp

■様式: JCOMMホームページよりダウンロード。

編集後記

交通計画を学び始めてから今まで、外出を抑制する社会が到来するとは全く考えたことがありませんでした。MMは方程式のように単一の解を求めようとせず、地域や住まう人と向き合って試行錯誤を繰り返しながら暮らしのための交通をととのえていく取り組みです。読者の皆さんが普段からなさっているマネジメントは、危機においても、真価を発揮するものではないでしょうか。怯まず、危機を乗り越え回復するためのマネジメントに微力ながら取り組みたいと思います。

山口大学 大学院創成科学研究科 准教授 鈴木 春菜